

第1回 第5次泉大津市総合計画審議会 議事録（要旨）

日 時	令和6年4月26日（金曜日） 10:00 ～ 12:00
場 所	市役所3階 大会議室
出席者 （敬称略）	<p>会 長：臼谷 喜世彦（泉大津商工会議所） 副会長：杉原 充志（羽衣国際大学現代社会学部） 委 員：松本 真麗（泉大津市議会）、大塚 英一（泉大津市議会）、岡本 笑明（泉大津市議会）、丸谷 正八郎（泉大津市議会）、谷野 司（泉大津市議会）、大久保 學（泉大津市自治会連合会）、高寺 壽（泉大津市民生委員・児童委員協議会）、出口 勝正（泉大津市PTA協議会）、川井 太加子（桃山学院大学社会学部）、中島 智（羽衣国際大学現代社会学部）、宮橋 小百合（和歌山大学教育学部）、重里 紀明（泉大津市）、寺地 直子（市民）、中尾 千鶴江（市民）、澤 孝弥（市民）、辻田 和也（市民）、小橋 幸子（市民） 欠席：武本 優次（泉大津市医師会）</p> <p>事務局：南出市長、吉田参与兼市立病院事務局長、東山市長公室理事（代理）、東山政策推進部長、虎間総務部長、松下保険福祉部長、藤原健康こども部長、山野都市政策部長、橋本市議会事務局長、鍋谷教育部長、藤原消防長、高橋危機管理課長（代理）、柏上下水道統括監、野村政策推進課長、竹村政策推進課長補佐、中島政策推進課員、丸山政策推進課員</p>
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長あいさつ 3 委員の紹介 4 会長、副会長の選出について 5 会長あいさつ 6 第5次泉大津市総合計画（案）の諮問について 7 本日の議事の進め方について 8 第5次泉大津市総合計画（案）について 9 閉 会

■議事概要

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 委員の紹介
- (4) 会長、副会長の選出について
 - ・互選により、会長に臼谷委員、副会長に杉原委員を選出
- (5) 会長あいさつ
- (6) 第5次泉大津市総合計画（案）の諮問について
 - ・市長から本審議会へ泉大津市総合計画（案）を諮問
- (7) 本日の議事の進め方について
- (8) 第5次泉大津市総合計画（案）について
 - ・事務局より資料説明

副 会 長： いかなる政策を検討するにあたっては、人口減少、高齢化の問題を大前提としておく必要がある。泉大津市は、人口減少の速度も遅く、第4次総合計画の間に転入人口が僅かであるが増えている。だからと言って泉大津市だけが良くて、周辺地域が衰退しているとあつては、まち全体としてあるべき姿ではない。広域連携の視点が、個々の論点を詰めていく上で、忘れてはならない。

- 委員：基本理念やまちづくりの視点は抽象的な表現になりがちだが、少しでもいいので、泉大津市らしさを入れ込んでどうか。泉大津市の強みやアセットを活かし、もっと泉大津市らしさと関連した表現を盛り込むと、市民がイメージしやすく、自分事としてとらえやすいのではないか。
- 会長：基本構想は一般的な話が多くなりがちだが、地理的条件、歴史的背景を踏まえた表現を盛り込んでほしい。市内で開催されるイベントの多くは、市民が主体的に取り組んでいる。これからは自らがつくるあげる時代である。泉大津市のポテンシャルである「人」をどうやって持続的に育て続けるのかが課題である。
- 委員：資料3の10頁に、分野ごとの満足度と今後の重要度が示されている。このなかで、観光分野は満足度、重要度ともに、非常に低い。インバウンド観光客に魅力を伝える取組が必要ではないか。
- 委員：観光という点で言えば、泉大津市には公園やフェニックスなどがある。野菜を植えられる公園であったり、泉大津市のイメージ「羊」であったり、そういうものを上手く魅力として役立てられるのではないか。市内にシェアサイクル（自転車レンタル）スポットが出来たが、シーパsparkや港湾部等の市内をサイクリングするという流れができるとうい。
- 委員：魅力的なまちとなるには、若者の力が必要であり、一番大切なのは大学生の力だと思う。市内に大学はないが、利便性が高いことを活かして、安価な住まいとボランティア等の活躍する場を設けてはどうか。ボランティアなどでつながりをつくることで、就職は市外でも、泉大津市に住み続けてもらえるのではないかと思う。
- 委員：例えば、泉大津市には広い土地が無く、農業は大きく発展していない。得手不得手を踏まえた広域連携が必要である。南海トラフ地震への対策についても、例えば警備会社と連携する等の、災害時の支援体制について自治体・民間事業者とスクラムを組むことが重要である。連携する警備会社にメリットがある形で契約をするとよい。
- 今の世の中は、活気が足りないと感じる。まちが活性化するには、まちが稼ぐ必要がある。様々な主体がビジネスプランを持ち寄り、よいプランは実際に事業を立ち上げ皆でバックアップし、その事業利益を基金として子育てのために使うなどができれば、稼ぐ力と活気が生まれるのではと考えている。
- 委員：JRと南海電鉄も通っていて、交通の便もよい。ここから観光にシフトするよりも、住みたいまちに重点を置いて、学生も住みやすいし、会社に勤めている若い人も住みやすいと印象付けるのがよいのではないか。他県から来ている学生でも住んでみて良かったら、愛着がわく場合も多い。関空空港から近いので、留学生が住みやすいまちとして、大学生のボランティアにより留学生をサポートしてはどうか。大学生以外の小学生から高校生にも、異文化を体験できる場になると良い。例えば港湾の景観をつかって、ダンスや踊りのテーマで国際的なフェスを実施して、国際交流として発展するのも良い。
- 委員：現在泉大津市では若者会議という取組があり、大学生のまちづくり参画も進んでいる。また、二十歳のつどい等では若者を中心に企画しているほか、市内には日本語学校もあり、留学生が地域のイベントにも参加し、交流は進んでいるところである。
- 副会長：人口が減少していくことを前提に考えるのか、今の規模に踏みとどまって考えるのがよいか整理する必要がある。

- 委員：観光に関して、地理的には関西空港が近くインバウンドの誘客が見込めるが、泉大津市が京都や大阪のようなマストツーリズム、観光消費の拡大を目指すという方針にはならないと考える。シーパsparkは、地域の人に参加するコミュニティづくりに価値を見出して運営されており、これ自体が素晴らしい観光資源といってよい。マイクロツーリズムという言葉も出てきている。地元の人が観光することが出発点にあり、こどもや大学生が、泉大津市をフィールドに、地域の歴史性、文化を学んで、企業と連携した社会実験まで繋げられる場ができるとよい。
- 委員：地域の人が、自発的にこども達の通学見守りに取り組んでいる。その温かさをこども達も感じており、大学生になったときに、地域に還元する人材というものの素地はできあがっていると感じている。これらの取組はまだゴールではなく、途中経過として引き続き進めることが必要だと思う。またこの温かさをPRすると、泉大津市に留まる若者もより現れると思う。市民や地域の力でやっていることも大きな魅力である。大学生にも力を貸してもらいながら、オーバーツーリズムではない観光が展開できれば、すばらしいまちになっていく。
- 委員：泉大津市の魅力は平坦なまちであること。弱点としては、大阪市内に出ていく際に、電車の交通費が高い。市外から人を呼び込む際には留意が必要と考える。
- 委員：高齢福祉分野に関わっているが、人材確保に苦慮する。外国人に活躍してもらおうこともこれからの課題。
- 委員：日本では、こどもをつくろうという人が減っている。基本理念として、人と人との出会いを紡ぐとあるが、結婚というつながりも考えたい。
- 委員：若者に対する支援が少ないのを肌身で感じるためサポートできるとよい。
- 委員：若者会議を通じて、泉大津市に対して愛着をもつようになったという声を聞いた。先ほどのからの、大学生に来ていただいて、住んでいただいて、愛着を持っていただく形の施策をどんどん進めていくのが一つのポイントになると感じた。
- 委員：古い工場、民家がなくなって、マンションアパートが増えている印象をもっている。魅力を感じ、住んでもらえるような取組が重要。この総合計画が、泉大津市が変わっていく過渡期の大事な計画である。外国人も増えてきており、コミュニティができている。日本全体の問題であるが、外国人とどのように共生をしていくか。官民連携で課題解決に取り組むとしているが、どのように共生するかが課題。
- 委員：総合計画の性格上、総花的になることは致し方ないと思っている。人口が減少することはデータでもはっきり示されている。人口が減少する現実を受け止めながら、転入者を増やすためにはどのような取り組みがあるのか、考えて行きたい。
- 会長：泉大津市民は泉大津市が好きな人が多いとよく言われる。これからは取捨選択が必要となってくる。観光をどうするのかの議論があったが、弱みを強くするのか、強みをさらに強くするのか、勇気をもって取捨選択していただき、取り組んでいただければと思う。本日の審議を踏まえて、基本計画の素案を次回議論する。

(4) 閉会

事務局：次回の開催については、6月3日（月）14：00からを予定している。場所も本日も同じこの場所を考えている。

以上